

# 高田 秀 志

(情報理工学部)

## プログラミング×協調作業×創造性



プログラミングはしばしば「専門家がコンピュータを動かすために行う作業」とみなされがちですが、実際にはプログラミングという行為自体が人々の思考を磨き、創造性の源となるという考え方があります。また、仲間と協力して活動することも、創造性を引き出すために重要です。

このような考えの下で、子どもたちが協調的にプログラミングを行う活動を通して創造性を育むことを目的として、さまざまなシステムを構築し、実際にワークショップを開催してそのシステムを使用してもらう活動を行ってきました。

あらゆる世代の人々が創造的なマインドを持って日々の活動に取り組めるような社会を実現することが、心身ともに健康で豊かな生活を送ることのできる基盤になると考え、それをITによって手助けすることのできる研究を行いたいと考えております。



所属

情報理工学部 システムアーキテクトコース

研究テーマ

- プログラミングを通じた創造的思考育成支援
- オフィス等での協調作業支援
- ウェアラブルセンサによる健康行動誘発支援

キーワード

プログラミング、創造的思考育成、協調作業支援、ウェアラブル、健康行動促進

### LLMの活用による健康行動の促進

大規模言語モデル (Large Language Model, LLM) は、コンピュータによって自然な文章を生成できるようになるだけでなく、これまでは人間にしかできないと思われていた推論などの論理的思考が行えるようになると期待されています。現在、スポーツ健康科学部や総合心理学部の方々とともに、ウェアラブルセンサで取得した様々な活動データに基づき、個人に最適化された健康行動を誘発するようなメッセージをLLMによって生成し、LINEを通じてフィードバックするシステムを開発しています。身体的な側面から得られる指標だけでなく、心理的な指標も考慮することによって、より効果的に健康行動を促進するような機能となることを狙っています。



LINEによる運動促進・睡眠改善フィードバックシステム